

そこに当たり前にある幸せには、なかなか気付きにくいもの。親元を離れ、ご主人の実家で暮らし始めた入江優貴さんに、家族に対する思いをお聞きしました。

今、母親になって気付いた愛。

母はわたしに不安な時やつらい時、誰よりも理解してくれ、支えてくれました。

インタビュー 入江優貴さん

窮地に立たされた時 救ってくれた母の一言

わたしの一番の思い出は、小学校低学年の時にお母さんが炊いてくれた、一粒くりこ飯。学校帰りに見つけたくりを、一つだけ拾って帰ってお母さんに渡したら、その日の夜、ご飯に入れてくれたことがうれしくて…。そう言っていて、表情が印象的な入江優貴さんは、現在24歳で2児の母。八女郡立花町で、夫・翔一さん



子どもには「たくさん笑いかけ、抱きしめ、キスをするようにしている」という優貴さん。

のご家族と同居しています。

優貴さんは、中高邦雄さんと千代子さんの二女として金田で生まれ育ち、高校卒業後は宮崎県の南九州大学に進学しました。大学1年生の時に妊娠が発覚し、同じ大学の同級生だった翔一さんと学生結婚。20歳で長女、麗姫ちゃんを出産した後も、周囲の協力を得ながら子育てと学業を両立させ、おとし3月に大学を卒業しました。

妊娠が分かったときは、すごく不安でした。人に言うのもこわくて、3日ぐらい悩んだ後、電話で両親に報告しました。母はショックだったと思いますが、安心して産んでいいんだよ、あなたが泣いてたらおなかの赤ちゃんに良くないからね」と言ってくれ、その言葉にとても支えられて心がスッと軽くなりました。

それでもずっと、今まで大

目標は、お母さんみたいな強くて優しい母親になること。

事に育ててくれた両親に申し訳ない」という気持ちがあったそうです。そのことについて千代子さんはこう語ります。

電話を受けたときは頭の中が真っ白になりましたが、電話の向こうで泣いている娘の不安な気持ちを考えたなら、なんとか落ち着かせてあげたいと思ったんです。娘が新しい生命を授かったのは、本当に喜ばしいこと。こんなにかわいい孫に出会わせてくれた優貴さん、わたしは本当に感謝しています。里帰りをし



麗姫ちゃんは、中高さん夫婦にとつての初孫。お正月に里帰りしていた孫たちとの時間は、家で一緒に料理を作ったり、工作をしたりして過ごしました。

言葉じゃなく心で 母と子の強い信頼関係

子どものころから頑張り屋で、たくましい子だったという優貴さん。でもその陰には弱い部分を持っていることも、母はちゃんと分かっています。優貴さんは「つらい時やそつとしてほしいとき、何も言わなくても必ず理解してくれ

ていました」と、尊敬する千代子さんについて語ります。

優貴には姉と弟がいて、わたしは3人の子どもの同じように愛情持って育ててきました。一人ひとり性格や考え方が違います。子育てにマニュアルはありません。お互い涙を流したり、時には怒鳴り合ったりもしながら、子どもとはきちんと話し合っていて、その時

その時の問題を解決していくしかありません」と、千代子さん。そういった試練を繰り返して乗り越えてきたことで、親子がしっかりと信頼関係で結ばれているのでしょう。

目標は、お母さんみたいな強くて優しい母親になること。そつ答えてくれた優貴さんは、いとしい2人の子どもと共に母として日々成長しています。

編集を終えて...

尊敬する親から我が子へ… 愛のバトンつなぐ

優貴さんの実家にお伺いした日、わたしが一番に感じたのは家庭の温かさです。みんなが同じ部屋に集まり、麗姫ちゃんは、千代子さんに頼まれてわたしにコービーを出してくれたり、絵を描いて邦雄さんに見せたり、優貴さんとふざけ合ったり笑ったり、弟の華流くんにキスしたりと、大忙しでした。すてきな家族ですね。とわたしは言う。と、優貴さんは「普通の家族ですよ」と笑って答えました。インタビューを続けるうちに「普通の家族」のすばらしさが分かってきました。優貴さんがそうなるように、華流くんも本当に愛想良く笑う男の子です。また優貴さんは「母とわたしは友だち同士みたい」と言います。わたしは優貴さんと麗姫ちゃんがふざけ合っている様子も、まさに友だち同士のようだと思いました。育てたように子は育つ、といいます。愛されて育つた子は、愛を与えることのできる親になります。優貴さんの子育ては、確実に千代子さんからのバトンをつないでいました。(日吉由香)



「わたしの性格や考え方はお母さんとほぼ一緒」と優貴さん(前列右)。父・中高邦雄さん、母・千代子さん(金田)長女の麗姫ちゃん(4歳)、長男の華流くん(7か月)と、優貴さんが育った実家の庭先で。